

JAPAN ART FESTIVAL NEWS

カラヤン生誕100周年『ジャパン・アート・フェスティバル ~日本の微笑み~』



ザルツブルクに日本芸術が花開いた

去る2008年3月21日から23日までの3日間、オーストリアのザルツブルク市において、「JAPAN ART FESTIVAL ~日本の微笑み~」が開催され、盛況のうちに幕を閉じました。

ザルツブルク市は、ドイツ・ミュンヘンとウィーンを結ぶ幹線上にある、世界遺産にも認定されているオーストリア第二の都市。映画『サウンド・オブ・ミュージック』の舞台でもあり、モーツァルトの生まれ育った街としても知られています。そんなザルツブルクは、街中に響きわたる聖堂の鐘の音や、石畳で覆われた道、建ち並ぶバロック様式の民家など、まるで中世の時代そのままの雰囲気をもつ街でした。

美しい庭園で有名なミラベル宮殿の隣にあるコングレス・センターにおいて、本展覧会は開催されました。日本の芸術作品展がこの地で開催されるのは初めてのことであり、開催前日に行われたオープニングパーティーには、ザルツブルク市長代理や観光局長をはじめ、日本から訪れた出展アーティストの皆様を含めると、実に200人を超える方々が出席し、盛大に行われました。(／)



発行:

株式会社 美研インターナショナル

Biken International Co., Ltd.

〒150-0002

東京都渋谷区渋谷1-7-7

住友不動産青山通ビル9F

TEL: 03-5766-9291

FAX: 03-5766-9292

お客様相談室: 0120-503595

URL: <http://www.lifeisart.ne.jp>



イースター音楽祭が開催中ということもあり、展覧会には地元オーストリアやドイツからはもちろん、フランスやスペイン、遠くはアメリカからの来場者も。洋画だけでなく、日本画や俳句、短歌といった日本の芸術作品に触れ、感嘆の声を上げていました。また、イースター音楽祭の会場となった祝祭劇場のカメラマンや他国のマスコミが本展覧会会場の様子取材するなど、日本芸術への関心の高さがうかがわれました。

イースターに盛り上がる音楽の都

20世紀最大のマエストロであるヘルベルト・フォン・カラヤンが創設したザルツブルク・イースター音楽祭。50周年を迎えた今年は、カラヤン生誕100周年という記念の年でもあり、音楽祭は大いに盛り上がりました。

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団と小澤征爾氏の指揮、そしてヴァイオリニストのアンネ＝ゾフィー・ムター氏の演奏という、まさに世界最高峰のアーティストたちが奏でたベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲やショスタコヴィチ

作品は、鳥肌がたつほどにダイナミックで、華麗なものでした。

演奏終了後には、本展覧会の出展アーティストが小澤氏の楽屋に招かれ、ステージの熱気が冷めやらぬなか、花束などを贈り、ジャンルを超えた芸術家の交流が実現しました。

アートと音楽のコラボレーションに新しい可能性が見えた

本展覧会は、世界各国の人々に足を運んでいただきましたが、印象的だったことは一般の来場者のほかに、劇場関係者や音楽家、ギャラリスト、画家、写真家などの音楽やアートに携わる方が多かったことです。話をした地元のアーティストの方は、「日本人アーティストの作品から新しいインスピレーションを得た」と熱く語っていました。

また、今回は音楽祭のなかでの展覧会ということで、展示作品の一部がイースター音楽祭の会場内に展示され、世界中から集まった人々は日本の芸術と音楽の共演に



賞賛の声を上げていました。

音楽とアートというふたつのジャンルの共演。一見あり得ないように思われるかもしれませんが、ザルツブルクでは音楽とアートのコラボレーションは珍しいことではありませんでした。

音楽から発想を得て描かれた絵画、その絵画を表紙に

使った楽譜も当たり前のようにつくられ、音楽とアートの同時展覧演奏会も頻繁に催されていました。展覧会を訪れた方からも「音楽とアートという言葉のない芸術を融合させるすばらしさを、もっと日本人アーティストにも知ってもらいたい」、「日本人アーティストのレベルの高さならば、世界の音楽と共演することが可能だ」との声が聞かれました。

古来より影響を与え合いながら発展してきた、音楽とアート。ジャンルを超えた芸術の融合に、これからのアートの新しい可能性を見出すことができました。